

2019年8月7日

消化器内科の外来診療あるいは入院診療を受けられた患者さんへ

「上部消化管術後再建腸管症例の胆管結石に対する内視鏡治療
の有用性に関する後方視的検討」への協力をお願い

消化器内科では、過去に下記のような診療を受けた患者さんの試料・情報を用いた研究を行います。皆様のご理解とご協力をお願い申し上げます。

研究の対象：2012年1月～2018年3月に当科において、上部消化管術後再建腸管症例の胆管結石に対して内視鏡的治療を受けられた方

研究期間：倫理審査委員会承認日～2021年12月31日

研究目的・方法：上部消化管術後再建腸管症例の胆管結石は、胆管開口部まで内視鏡を挿入することが困難であるために、従来は経皮的治療や外科的治療が施行されてきました。しかしながら、バルーン小腸内視鏡の登場により、内視鏡を胆管開口部まで挿入し内視鏡的逆行性膵管胆管造影を行い治療することが可能となりました。さらに、近年では超音波内視鏡下に胆管にアプローチし、順行性に治療する有用性も報告されています。これらの内視鏡治療の現状を検討することを目的としています。

研究に用いる試料・情報の種類：

以下の情報をカルテより取得します。

性別、年齢、上部消化管手術既往

胆管結石径、胆管径

内視鏡的逆行性膵管胆管造影：内視鏡処置時間、処置回数、乳頭到達可否、胆管挿管可否、結石除去可否

超音波内視鏡下治療：胆管穿刺可否、ガイドワイヤー留置可否、結石除去可否

合併症の有無

研究への参加辞退をご希望の場合

本研究に関して新たに患者さんに行っていただくことはありませんし、費用もかかりません。本研究に関する質問等がありましたら以下の連絡先まで問い合わせください。また、試料・情報が当該研究に用いられることについて了承いただけない場合には研究対象としませんので、以下の連絡先まで申し出ください。なお、本研究は、岐阜大学大学院医学系研究科医学研究等倫理審査委員会の承認を得ております。また、この研究への参加をお断りになった場合にも、将来にわたって当科における診療・治療において不利益を被ることはありませんので、ご安心ください。

研究から生じる知的財産権の帰属と利益相反

研究者及び岐阜大学に帰属し、研究対象者には生じません。研究の結果の解釈および結果の解釈に影響を及ぼすような「起こりえる利益相反」は存在しません。

連絡先

岐阜大学医学部附属病院 消化器内科

電話番号 058-230-6308

氏名：岩下拓司

研究責任者

岐阜大学医学部附属病院 消化器内科

氏名：岩下拓司